

## 看護学部学生の社会人基礎力の獲得に関する研究 ～令和4年度（2022）入学生 第1回目調査結果報告～

立川美香\*1・佐藤美幸\*1・安成智子\*1・新開奏恵\*1・福岡泰子\*1・角光通子\*2

(\*1宇部フロンティア大学看護学部看護学科・\*2宇部フロンティア大学学生課)

A Study on the Acquisition of Basic Skills to Be Members of Society by Students in the Faculty of Nursing

Mika Tachikawa\*1, Miyuki Sato\*1, Tomoko Yasunari\*1, Kanae Shinkai\*1

Yasuko Fukuoka \*1 and Michiko Kadomitsu\*2

(\*1 Department of Nursing, Ube Frontier University, \*2 Student Affairs Division, Ube Frontier University)

近年の人口動態の変化や事業環境の激変により「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、『社会人基礎力』が求められるようになってきた。

本研究では、看護学部での教育による学生の社会人基礎力の獲得状況と、その課題および卒業時の到達目標（ディプロマポリシー）の到達度を明らかにし、今後の看護教育に役立てることを目的として、令和4年度に入学した看護学部学生に対して社会人基礎力に関する調査をおこなった。

調査の結果、傾聴力や状況把握力が高い傾向にあり、自らが新しい価値を生み出し、ゴールに向かって目標を設定し確実に前に進んでいく実行力は課題であることがわかった。

キーワード：社会人基礎力、キャリアデザイン、ディプロマポリシー

Keyword: Basic Skills to Be Members of Society, Career Design, Degree Awarding Policy

### 1. はじめに

文部科学省による令和3年度学校基本調査では、大学(学部)・短期大学(本科)進学率は58.9%で前年度より0.3ポイント上昇し、過去最高となった<sup>1)</sup>。近年の人口動態の変化や事業環境の激変により、社会は、大学や短大を卒業した学生に、専門知識を備えた即戦力としての人材ではなく、変化に対応でき、付加価値を創出する担い手を求めるようになってきた。

こうしたことを背景に経済産業省では、平成18年(2006)に「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、『社会人基礎力』を提示した。社会人基礎力は「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力と12

の要素を掲げ、自己を認識してリフレクションしながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが自らのキャリアを切り開いて行く上で必要と位置づけ<sup>2)</sup>、人材に求められる能力要件も大幅に変化してきた。

大学での初年次教育(高等学校から大学への円滑な移行を図り、大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるべく、主として大学新入生を対象に作られた総合的教育プログラム)で、プレゼンテーションやディスカッション等の口頭発表の技法を身に付けるためのプログラムを実施している大学数は、平成23年では512大学(70%)から平成30年では631大学(85%)となっている。また、キャリア教育を課程内で実施している大学数は、平成28年713大学(97%)から平

[看護学]

[研究ノート]

成30年724大学(98%)と、社会状況の変化に対応した、初年次養育やキャリア教育に取り組んでいる大学が多くなってきている<sup>3)</sup>。

宇部フロンティア大学看護学部では、初年次教育の一環として「基礎ゼミナール」を必修科目として、前期に<スタディスキル>、後期に<キャリアデザイン>を学修する。

「基礎ゼミナール」は、前期に大学生活と学習が円滑に進むよう、大学で学ぶことの意義と意味、自らの学習環境、ライティングスキル・リーディングスキル・コミュニケーションスキル・レポートの作成などのスタディスキルと、スケジュール管理や金銭管理・マナーなどの生活上のスキルを学ぶ。こうした学びにより、学生に対し、高校までの受動的学修から能動的学修へと変化を促すことを目的としている。

後期には、社会人基礎力の基盤の一つとして、グループワークとキャリア支援を軸として展開する。グループワークでは、課題に主体的に取り組むと同時にグループ内での自らの役割や立場を全うし、コミュニケーションスキルを発揮しながらグループメンバーの意見を取り入れる姿勢を学ぶ。また看護職に向けたキャリアを自らデザインできるよう卒業生や先輩の話や患者の体験を聴く機会を設け、自分の将来像を見据えた4年間の過ごし方を考えることを目的としている。このような学びによって、学生には社会人基礎力としてどのように身につけているのか、また学生自身がどのような課題を残しているのかを評価するために、経

年的な変化を追っていきたいと考えた。これにより、基礎ゼミナールおよび看護学部の教育の評価の1つとして本研究に取り組んだ。

## 2. 研究目的

本研究は、看護学部での教育による学生の社会人基礎力の獲得状況とその課題および卒業時の到達目標(ディプロマポリシー)の到達度について明らかにし今後の教育に役立てることである。

<看護学部のディプロマポリシー>

1. 人に寄り添う高い倫理観  
生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観を持つことができる。
2. 幅広い教養に基づく柔軟な思考力  
幅広い教養を育むために、学問を探究し批判的思考力を持つことができる。
3. 看護学を生涯学び続ける姿勢  
看護の現象・事象に対応できる高度な専門的知識・技術を高める姿勢を持つことができる。
4. 看護専門職としての高度な実践力  
専門職としての的確な判断を行い、質の高い看護を提供する能力を持つことができる。
5. 看護の視点から広く社会貢献する態度  
グローバルな社会における看護の役割を広い視野で捉え、社会に貢献する態度を持つことができる。

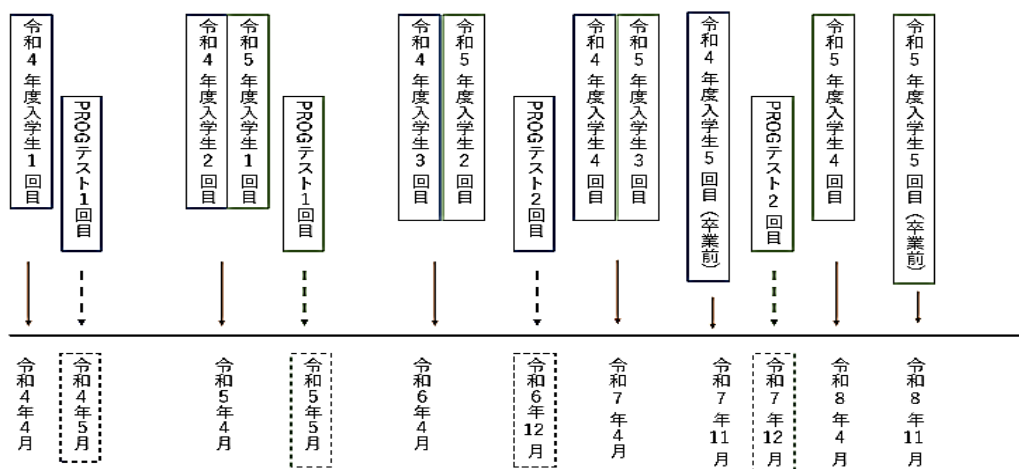


図1. 研究調査の計画

[看護学]

[研究ノート]

### 3. 研究方法

研究の方法は、令和4年度および令和5年度入学生を対象に、各学年および卒業前にエンプロイアビリティチェックシートと独自に作成した質問紙調査、およびPROG<sup>4)</sup>をおこなう。データの分析は、①学年別、テスト別に各回記述統計量を算出し、比較する。②経年的変化を見るために、学年別の多重比較を行う。③エンプロイアビリティチェックシートとPROGおよび独自に作成した質問紙で学年別に比較を行う。④データ分析は、各学年で学年内の比較、2年目以降は2学年間での比較を行い、最終的には2学年を1つのデータとして学年経過による変化を明らかにする(図1)。

#### 3.1. 調査対象者

宇部フロンティア大学看護学部看護学科に令和4年度に入学した学生で、調査研究の同意が得られた69名を調査対象者とした。

#### 3.2. 調査方法

令和4年(2022)5月に、質問紙を配布し調査を行った。調査は自記式で無記名とした。質問紙はその場で回収した。

#### 3.3. 調査内容

以下の1)~7)の内容を質問紙で行った。

##### 1) 将来目指す職業

##### 2) 学習状況

学習状況については、①規則正しい生活ができている②計画的に学習している③授業の出席率はよい④予習をしている⑤復習をしている⑥成績に満足しているの6項目について「はい」「いいえ」の2つの選択肢で行った。

##### 3) 生活状況

生活状況については、①相談できる人がいる②友人関係は良いと思う③大学生活は楽しい④大学生活に満足しているの4項目について「はい」「いいえ」の2つの選択肢で行った。平日の就寝時間と起床時間を直接記述する。

##### 4) アルバイトの状況

アルバイトを行っているか、「はい」「いいえ」の2つの選択肢で行った。アルバイトを行っている場合はアルバイトの回数を直接記述する。

##### 5) 社会人基礎力

社会人基礎力は、経済産業省が示す「前に踏み出す力(アクション)」「考え抜く力(シンキング)」「チームで働く力(チームワーク)」の3つの能力と12の要素とした。「前に踏み出す力(アクシ

ョン)」として①主体性(物事に進んで取り組む力)②働きかけ力(他人に働きかけ巻き込む力)③実行力(目標を設定し確実に行動する力)。「考え抜く力(シンキング)」は、④課題発見力(現状を分析し目的や課題を明らかにする力)⑤計画力(課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力)⑥創造力(新しい価値を生み出す力)。「チームで働く力(チームワーク)」は、⑦発信力(自分の意見を分かりやすく伝える力)⑧傾聴力(相手の意見を丁寧に聞く力)⑨柔軟性(意見の違いや立場の違いを理解する力)⑩状況把握力(自分と周囲の人々の物事の関係性を理解する力)⑪規律性(社会のルールや人との約束を守る力)⑫ストレスコントロール力(ストレスの発生源に対応する力)とし、「あてはまらない」1点・「あまりあてはまらない」2点・「まああてはまる」3点・「あてはまる」4点とした。

#### 6) 職業人意識

職業人意識は、平成29年度労働者等のキャリア形成における課題に応じたキャリアコンサルティング技法の開発に関する調査・研究事業、エンプロイアビリティチェックシート<sup>5)</sup>に示す、就職基礎能力としての「責任感」を①社会の仕組みの多くは働く人の納税で成り立っていることを理解している②ルールや法律、約束を一人ひとりが守ることが責任である事を理解し行動している③無断で休んだり、遅刻すると周囲に大きな迷惑をかけることを理解し行動している④組織は一人ひとりの従業員(学生)の行動によって社会から評価されることを理解し行動している⑤組織に対するクレームや問題は従業員(学生)全員の責任である事を理解し行動しているの5項目で調査した。「向上心・探求心」は、①わからないことはすぐに人に聞く前に自分でまず答えを考える②自己成長のために定期的に取り組んでいることがある③常に社会や経済の動きに関心を持つように心がけている④社会問題等に対して自分なりの考えを持ち行動している⑤今後の仕事に必要な職業能力を分析し、向上させているの5項目で調査した。「あてはまらない」1点・「あまりあてはまらない」2点・「まああてはまる」3点・「あてはまる」4点とした。また、「職業意識・勤労観(職業や勤労に関する広範囲な見方・考えかたを持ち、意欲や態度等を示すことができる)」に

については、「あなたにとって働くことで得られると思うよいこと」をできるだけ多く答える自由記述とした。

#### 7) ディプロマポリシー

看護学部のディプロマポリシーを研究者間で検討し、卒業時の到達目標として次の 29 項目で測定した。①基本的人権は国民に平等な権利である②人種や性別などの差別は仕方がない③障害者は特別に扱われなければならない④看護は全ての人々に平等に行わなければならない⑤個人が特定されなければ患者のことを他者に話してもよい⑥幅広い分野の教養を身につけている⑦複雑な問題について順序立てて考えることが得意だ⑧誰もが納得できるような説明をすることができる⑨私の欠点は気が散りやすいことだ⑩物事を考えるとき他の案について考える余裕がない⑪課題がでなくても自ら進んで学習(予習・復習)をする⑫疑問を持ったことについては進んで調べている⑬苦手な科目や技術について克服する努力をしている⑭生涯にわたり学び続けたいと思う⑮新しいものにチャレンジすることが好きである⑯役に立つかわからないことでも、できる限り多くのことを学びたい⑰わからないことがあったら、先生や他の学生に積極的に聞く⑱先を考えて計画を立てることができる⑲いつも偏りのない判断をしようとする⑳一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする㉑たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける㉒他者のアドバイスを熟慮して実践に活かす㉓自己の能力を高めるために自分に合った勉強方法を用いている㉔世の中で起きていることについて興味を持っている㉕ボランティア活動に参加している㉖困っている人がいたら、手を差し伸べる㉗社会のルールは常に守っている㉘集団の中で自分の役割を果たしている㉙私は地域に貢献しているとしている。

各項目の配点は、「そう思わない/行っていない」(1点)・「あまりそう思わない/あまり行っていない」(2点)・「ややそう思う/時々行っている」(3点)・「そう思う/いつも行っている」を(4点)とした。

#### 3.4. 分析方法

今回の調査は第1回目の調査につき、質問項目ごとに記述統計量を算出した。

#### 3.5. 倫理的配慮

本研究は、研究者の所属施設の研究倫理審査委員会の承認を得て行った(管理番号 21007)。研究対象者には、研究の目的・方法・期待される結果と学会等での公表予定、研究対象者にとっての研究協力に関する利益と不利益を伝え、自由意思による研究参加の保証ならびに辞退の自由、匿名性の保持を保障した。これらを文書と口頭で説明し、同意を得た。

### 4. 結果

#### 4.1. 将来の希望職種

将来の希望職種として、看護師は 36.2%、保健師 4.3%、養護教諭 4.3%、助産師 5.8%であった。44.93%の学生が複数の資格を希望していることがわかった(表 1)。

表1. 将来の希望職種

職種	1年生 (n=69)	%
看護師	25	36.2
保健師	3	4.3
養護教諭	3	4.3
助産師	4	5.8
看護師または保健師	15	21.7
看護師または養護教諭	9	13.0
看護師または助産師	1	1.4
看護師または保健師または養護教諭	5	7.2
看護師または保健師または養護教諭または養護教諭	1	1.4
その他	1	1.4
回答なし	2	2.9

#### 4.2. 学習・生活状況

学習状況は、「規則正しい生活ができている」は 82.6%、「計画的に学習している」は 66.2%、「授業の出席率はよい」は 98.6%、「予習をしている」は 72.1%、「復習をしている」は 75.0%、「成績に満足している」は 24.2%だった(表 2-1)。

表2-1. 学習状況

項目	1年生 (n=69)	%
規則正しい生活ができている	はい 57 いいえ 12	82.6 17.4
計画的に学習している	はい 45 いいえ 23	66.2 33.8
授業の出席率はよい	はい 68 いいえ 1	98.6 1.4
予習をしている	はい 49 いいえ 19	72.1 27.9
復習をしている	はい 51 いいえ 17	75.0 25.0
成績に満足している	はい 15 いいえ 47	24.2 75.8

生活状況は、「相談できる人がいる」は95.7%、「友人関係は良いと思う」は95.7%、「大学生活は楽しい」は95.6%、「大学生活に満足している」は88.2%だった(表2-2)。

表2-2. 生活状況

項目		1年生 (n=69)	%
相談できる人がいる	はい	66	95.7
	いいえ	3	4.3
友人関係は良いと思う	よい	66	95.7
	よくない	3	4.3
大学生活は楽しい	はい	65	95.6
	いいえ	3	4.4
大学生活に満足している	はい	60	88.2
	いいえ	8	11.8

平日の就寝時間と起床時間は、就寝時間0:00が最も多く50.0%、起床時間は6:00~7:00が68.0%であった(図2, 図3)。

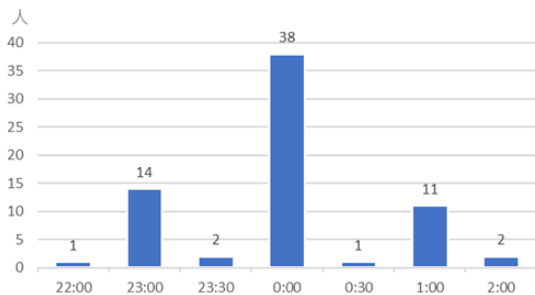


図2. 平日の就寝時間

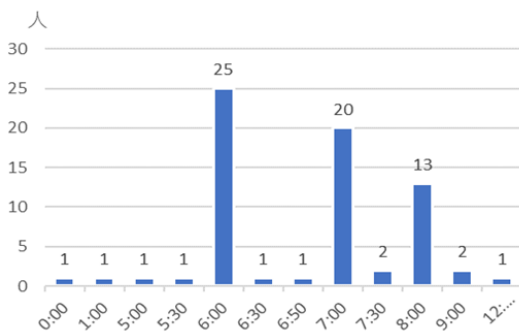


図3. 平日の起床時間

#### 4.3. アルバイト

アルバイトをしている学生は全体の56.5%であった。アルバイトの頻度として、週に3回が最も多く30.8%、週2回あるいは4回の学生がそれぞれ28.2%、週に5

回の学生が7.7%だった(表2-3)。

表2-3. アルバイト

項目		1年生 (n=69)	%
アルバイト	していない	30	43.5
	している	39	56.5
アルバイトの回数 (回/週)	1	2	5.1
	2	11	28.2
	3	12	30.8
	4	11	28.2
	5	3	7.7

#### 4.4. 社会人基礎力

アクションでは、【主体性】【働きかけ力】【実行力】の3要素で構成され、それぞれ5つの質問の計15項目の質問を行った。

【主体性】の5項目の合計の平均値(標準偏差:SD)は16.99(3.10)だった(表3)。【主体性】の中で最も当てはまる項目は、「課せられた役割・作業はベストを尽くす」と回答した学生は、36.5%だった(表4-1)。主体性の各項目の平均は3.24~3.75と、他の項目と比較して高い傾向にあった。

【働きかけ力】5項目の合計の平均値(標準偏差:SD)は、15.94(4.22)だった。【働きかけ力】の中で最も当てはまる項目は、「他人に協力を依頼できる」で30.8%だった(表4-1)。【働きかけ力】の中で、「初対面でも自ら話しかける」の2.71と【働きかけ力】の中で最も平均値が低かった。

【実行力】の5項目の合計の平均値(標準偏差:SD)は、14.01(3.52)だった(表3)。【実行力】の中で最も当てはまる項目は、「未経験仕事(作業)は最終ゴールを理解して予定を逆算する」「予定が狂ったら軌道修正してやり遂げる」でそれぞれ24.1%だった(表4-1)。アクションの3要素の中で平均値が一番低かったのは【実行力】だった。また、「目標時間を設定して達成を目指す」2.90、「仕事(学習)をするか計画を立てて前の日に終える」2.69、「目標を立てるときには必ず数字を入れて考える」2.70、「未経験仕事(作業)は最終ゴールを理解して予定を逆算する」2.82と他の項目と比較して平均値が低かった。アクションの3要素の中で平均値が一番低かったのは【実行力】14.01だった。

シンキングでは、【課題発見力】【計画力】【創造力】の3要素で構成され、それぞれ5つの質問の計15項目の質問を行った。

【課題発見力】の5項目の合計の平均値(標準偏差:

SD) は 15.75 (3.17) だった (表 3)。【課題発見力】の中で最も当てはまる項目は、「作業を行う際は少しでも改善点を考える」で 27.8%だった (表 4-2)。【課題発見力】の各項目の平均値は、2.97~3.32 と他の項目と比較して高い傾向にあった。

【計画力】の 5 項目の合計の平均値(標準偏差:SD) は 16.09 (3.28) だった (表 3)。【計画力】の中で最も当てはまる項目は、「計画を立てる際、優先順位を考えている」で 39.6%だった (表 4-2)。「何かを行う際、複数の考えの中からベストを考えて行う」の平均値は 3.38、「計画を立てる際、優先順位を考えている」の平均値も 3.54 と他の項目と比較して高かった。

【創造力】の 5 項目の合計の平均値(標準偏差:SD) は 12.28 (3.01) だった (表 3)。【創造力】の中で最も当てはまる項目は、「無駄と思いつつやってみたら心が動いた経験がある」で 50.0%だった (表 4-2)。シンキングの 3 要素の中で平均値が一番低かったのは【創造力】だった。「クリティカルシンキングを意識し心がけている」の平均値が 2.66 で他の項目と比較して低かった。シンキングの 3 要素の中で平均値が一番低かったのは【創造性】 12.28 だった。

チームワークは、【発信力】【傾聴力】【柔軟性】【状況把握力】【規律性】【ストレスコントロール力】の 6 要素で構成され、それぞれ 5 つの質問の計 30 項目の質問を行った。

【発信力】の 5 項目の合計の平均値(標準偏差:SD) は 15.66 (3.12) だった (表 3)。【発信力】の中で最も当てはまる項目は、「相手の立場や人権などに配慮して発言する」で 47.2%だった (表 4-3)。「要点や話の順番を整理して簡潔に発言している」の平均値が 2.65、「大勢の中でもいべき意見は言うことができる」の平均値が 2.84 と他の項目と比較して低かった。

【傾聴力】の 5 項目の合計の平均値(標準偏差:SD) は 17.18 (3.49) だった (表 3)。【傾聴力】の中で最も当てはまる項目は、「話を聞く際、相手の気持ちを考え汲み取る努力をしている」で 38.9%だった (表 4-3)。

【傾聴力】の各項目の平均値は、3.19~3.81 と他の項目と比較して高かった。中でも「話を聞く際、相手の気持ちを考え汲み取る努力をしている」は 3.81 と高い平均値だった。

【柔軟性】の 5 項目の合計の平均値(標準偏差:SD) は 15.57 (3.38) だった (表 3)。【柔軟性】の中で最も当てはまる項目は「謙虚さを持ち他者の良い点は取り

入れるようにしている」で 37.7%だった (表 4-3)。【柔軟性】の中で、「意見の異なる人とは、どんな背景の差があるのかを考える」の平均値は 2.79、「立場の異なる人ならどんな意見を出すか仮説を立てる」の平均値は 2.55 と【柔軟性】の中では低かった。

【状況把握力】の 5 項目の合計の平均値(標準偏差:SD) は 17.22 (3.17) だった (表 3)。【状況把握力】の中で最も当てはまる項目は「相手との関係性を理解して適切な言葉遣いや行動をする」 37.7%だった (表 4-3)。【状況把握力】の各項目の平均は 3.18~3.71 と他の項目と比較して高かった。

【規律性】の 5 項目の合計の平均値(標準偏差:SD) は 16.94 (3.29) だった (表 3)。【規律性】の中で最も当てはまる項目は「約束した予定は必ず守る」で 36.4%だった (表 4-3)。【規律性】の各項目の平均は 3.24~3.58 と他の項目と比較して高かった。

【ストレスコントロール力】の 5 項目の合計の平均値(標準偏差:SD) は 15.72 (3.45) だった (表 3)。

【ストレスコントロール力】の中で最も当てはまる項目は「自分にとってストレスを感じる状況や環境を理解している」 35.8%だった (表 4-3)。【ストレスコントロール力】の各項目の平均は 2.81~3.49 と他の項目と比較して高かった。チームワークの 6 要素の中で平均値が一番低かったのは【柔軟性】 15.57 だった。

表 3. 社会人基礎力調査結果

項目		2022年度	
		M	SD
アクション	主体性	16.99	3.10
	働きかけ力	15.94	4.22
	実行力	14.01	3.52
シンキング	課題発見力	15.75	3.17
	計画力	16.09	3.28
	創造力	12.28	3.01
チームワーク	発信力	15.66	3.12
	傾聴力	17.18	3.49
	柔軟性	15.57	3.38
	状況把握力	17.22	3.17
職業人意識	規律性	16.94	3.29
	ストレスコントロール力	15.72	3.45
	責任感	18.32	1.85
ディプロマポリシー	向上心・探求心	14.96	2.72
		86.13	7.97

表4-1. 社会人基礎力：「前に踏み出す力（アクション）」

項目	人（有効％）				M	SD	最も当てはまる項目（％）	
	あてはまらない (1点)	あまりあてはまらない (2点)	まああてはまる (3点)	あてはまる (4点)				
主体性	知らない事柄に出くわしたら自ら尋ねる・調べる	0(0.0)	5(7.5)	34(50.7)	28(41.8)	3.34	0.61	17.3
	皆が嫌な作業でも必要なら率先してやる	1(1.5)	6(9.0)	36(53.7)	24(35.8)	3.24	0.67	21.2
	課せられた役割・作業はベストを尽くす	0(0.0)	0(0.0)	17(25.0)	51(75.0)	3.75	0.43	<b>36.5</b>
	未経験でもチャンスと考え挑戦する	0(0.0)	8(11.8)	32(47.1)	28(41.2)	3.29	0.67	7.7
	行事の準備・片付けは頼まれなくても手伝う	0(0.0)	3(4.5)	27(40.3)	37(55.2)	3.51	0.58	17.3
働きかけ力	初対面でも自ら話しかける	7(10.8)	22(33.8)	19(29.2)	17(26.2)	2.71	0.97	19.2
	上手くいかないとき周囲に教え方を乞える	2(3.1)	10(15.4)	26(40.0)	27(41.5)	3.20	0.81	9.6
	他人に協力を依頼できる	2(3.0)	3(4.5)	20(29.9)	42(62.7)	3.52	0.72	<b>30.8</b>
	目標達成のために周囲に協力を得たことがある	0(0.0)	5(7.6)	15(22.7)	46(69.7)	3.62	0.62	17.3
	イベント企画を実現したことがある	6(9.0)	11(16.4)	19(28.4)	31(46.3)	3.12	0.99	23.1
実行力	目標時間を設定して達成を目指す	3(4.5)	16(23.9)	33(49.3)	15(22.4)	2.90	0.79	16.7
	仕事（学習）をするか計画を立てて前の日に終える	6(9.0)	26(38.8)	18(26.9)	17(25.4)	2.69	0.95	14.8
	目標を立てるときには必ず数字を入れて考える	8(11.9)	19(28.4)	25(37.3)	15(22.4)	2.70	0.95	20.4
	未経験仕事（作業）は最終ゴールを理解して予定を逆算する	5(7.5)	11(16.4)	42(62.7)	9(13.4)	2.82	0.75	<b>24.1</b>
	予定が狂ったら軌道修正してやり遂げる	0(0.0)	13(19.1)	37(54.4)	18(26.5)	3.07	0.67	<b>24.1</b>

表4-2. 社会人基礎力：「考え抜く力（シンキング）」

項目	人（有効％）				M	SD	最も当てはまる項目（％）	
	あてはまらない (1点)	あまりあてはまらない (2点)	まああてはまる (3点)	あてはまる (4点)				
課題発見力	不安を感じるときはその原因を探り考える	0(0.0)	11(16.7)	34(51.5)	21(31.8)	3.15	0.68	25.9
	作業を行う際は少しでも改善点を考える	0(0.0)	9(13.2)	29(42.6)	30(44.1)	3.31	0.69	<b>27.8</b>
	自分が考えた工夫で効率UPしたことがある	1(1.5)	10(14.9)	32(47.8)	24(35.8)	3.18	0.73	11.1
	機械にトラブルがあったら原因を考えて対応する	3(4.5)	13(19.4)	34(50.7)	17(25.4)	2.97	0.79	9.3
	上手くいかない原因を見つけて改善したことがある	0(0.0)	7(10.3)	32(47.1)	29(42.8)	3.32	0.65	25.9
計画力	イベント等を企画し無事に開催させたことがある	8(11.8)	16(23.5)	21(30.9)	23(33.8)	2.87	1.01	11.3
	何かを計画する際、「もしも」を考えるようにしている	0(0.0)	10(14.9)	27(40.3)	30(44.8)	3.30	0.71	34.0
	何かを行う際の手順やアイデアを複数考えるようにしている	2(2.9)	11(16.2)	33(48.5)	22(32.4)	3.10	0.77	3.8
	何かを行う際、複数の考えの中からベストを考えて行う	1(1.5)	5(7.5)	29(42.6)	33(48.5)	3.38	0.69	11.3
	計画を立てる際、優先順位を考えている	0(0.0)	4(6.0)	23(34.3)	40(59.7)	3.54	0.61	<b>39.6</b>
創造力	クリティカルシンキングを意識し心がけている	3(4.4)	23(33.8)	36(52.9)	6(8.8)	2.66	0.70	13.5
	日常の中でちょっとした新発明・発見をしたことがある	6(8.8)	28(41.2)	26(38.2)	8(11.8)	2.53	0.81	17.3
	「あったらいいなと思うもの」が商品化されたことがある	34(50.0)	23(33.8)	9(13.2)	2(2.9)	1.69	0.81	3.8
	他人からユニークを言われたことがある	16(23.9)	21(31.3)	19(28.4)	11(16.4)	2.37	1.02	15.4
	無駄と思いつつやってみたら心が動いた経験がある	3(4.5)	14(20.9)	23(34.3)	27(40.3)	3.10	0.88	<b>50.0</b>

表4-3. 社会人基礎力：「チームで働く力（チームワーク）」

項目	人（有効%）				M	SD	最も当てはまる項目（%）	
	あてはまらない（1点）	あまりあてはまらない（2点）	まああてはまる（3点）	あてはまる（4点）				
発信力	要点や話の順番を整理して簡潔に発言している	2 (2.9)	26 (38.2)	34 (50.0)	6 (8.8)	2.65	0.68	3.8
	相手の理解度に確かめつつ話をしている	0 (0.0)	6 (8.8)	33 (48.5)	29 (42.6)	3.34	0.63	17.0
	相手の立場や人権などに配慮して発言する	0 (0.0)	5 (7.5)	17 (25.4)	45 (67.2)	3.60	0.62	<b>47.2</b>
	意見が対立しないような言い方を考えて発言している	3 (4.5)	7 (10.4)	18 (26.9)	39 (58.2)	3.39	0.85	28.3
	大勢の中でもいうべき意見は言うことができる	4 (6.0)	17 (25.4)	32 (47.8)	14 (20.9)	2.84	0.82	3.8
傾聴力	話を聞く際、相手の気持ちを考え汲み取る努力をしている	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (19.4)	54 (80.6)	3.81	0.40	<b>38.9</b>
	話を聞く際、ノンバーバルスキルを十分に使っている	0 (0.0)	2 (3.0)	23 (34.3)	42 (62.7)	3.60	0.55	37.0
	あまり興味のない話でも、適当に質問したりできる	3 (4.4)	10 (14.7)	26 (38.2)	29 (42.6)	3.19	0.84	7.4
	対立した意見でもすぐに反論したりはしない	0 (0.0)	10 (14.9)	25 (37.3)	32 (47.8)	3.33	0.72	13.0
	話を聞く際、その人の背景や立場も踏まえて聞く	0 (0.0)	4 (6.0)	28 (41.8)	35 (52.2)	3.46	0.61	3.7
柔軟性	意見の異なる人とは、どんな背景の差があるのかを考える	4 (6.0)	18 (26.9)	33 (49.3)	12 (17.9)	2.79	0.80	3.8
	嫌いな人の意見でもいい点では認めて取り入れる	2 (3.0)	5 (7.5)	26 (38.8)	34 (50.7)	3.37	0.75	28.3
	立場の異なる人ならどんな意見を出すか仮説を立てる	5 (7.5)	30 (44.8)	22 (32.8)	10 (14.9)	2.55	0.83	7.5
	謙虚さを持ち他者の良い点は取り入れるようにしている	0 (0.0)	1 (1.5)	24 (35.8)	42 (62.7)	3.61	0.52	<b>37.7</b>
	一度決めたことは状況により臨機応変さを大切にしている	0 (0.0)	4 (6.0)	27 (40.3)	36 (53.7)	3.48	0.61	22.6
状況把握力	自分の置かれた立場や状況を常にわきまえて行動をする	0 (0.0)	3 (4.5)	26 (38.8)	38 (56.7)	3.52	0.58	24.5
	自分の立場から求められる役割を意識して行動している	0 (0.0)	3 (4.4)	33 (48.5)	32 (47.1)	3.43	0.58	22.6
	相手との関係性を理解して適切な言葉遣いや行動をする	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (29.4)	48 (70.6)	3.71	0.46	<b>37.7</b>
	周囲の人の立場や役割を意識して行動している	0 (0.0)	3 (4.4)	29 (42.6)	36 (52.9)	3.49	0.58	9.4
	トラブルがあった際、冷静に情報を収集し適切に判断できる	0 (0.0)	9 (13.4)	37 (55.2)	21 (31.3)	3.18	0.64	5.7
規律性	社会ルールの第一歩として元氣な挨拶を実行している	1 (1.5)	4 (5.9)	32 (47.1)	31 (45.6)	3.37	0.66	12.7
	時間は1分でも遅刻だと理解し5分前行動を心がけている	0 (0.0)	11 (16.2)	19 (27.9)	38 (55.9)	3.40	0.75	32.7
	時間や締め切りに間に合わない場合、事前に連絡している	2 (2.9)	5 (7.4)	18 (26.5)	43 (63.2)	3.50	0.76	16.4
	約束した予定は必ず守る	1 (1.5)	4 (6.0)	17 (25.4)	45 (67.2)	3.58	0.67	<b>36.4</b>
	組織の指揮命令システムを理解して行動している	0 (0.0)	9 (13.6)	32 (48.5)	25 (37.9)	3.24	0.68	1.8
ストレスコーポラ	自分にとってストレスを感じる状況や環境を理解している	2 (3.0)	4 (6.0)	20 (29.9)	41 (61.2)	3.49	0.74	<b>35.8</b>
	自分なりのストレス・コーピング方法を知っている	1 (1.5)	10 (14.7)	26 (38.2)	31 (45.6)	3.28	0.76	28.3
	成長のために適度なストレスは受ける仕事に挑戦する	1 (1.5)	9 (13.4)	29 (43.3)	28 (41.8)	3.25	0.74	7.5
	どうでもいいことは適当にやり過ごす	6 (9.0)	12 (17.9)	23 (34.3)	26 (38.8)	3.03	0.96	22.6
	ストレスの発生源を改善・解決したことがある	8 (11.8)	16 (23.5)	25 (36.8)	19 (27.9)	2.81	0.97	5.7



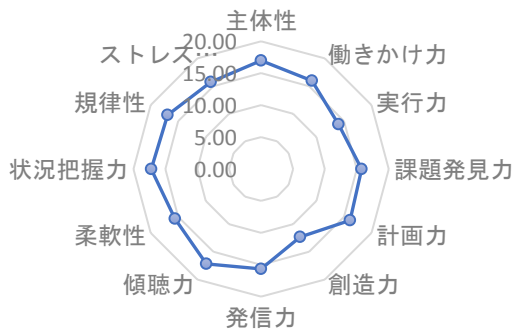


図4. アクション・シンキング・チームワーク

#### 4.5. 職業人意識

職業人意識では、【責任感】【向上心・探求心】の2要素で構成され、それぞれ5つの質問の計10項目の質問を行った。

【責任感】の5項目の合計の平均値(標準偏差:SD)は18.32 (1.85) だった(表3)。「社会の仕組みの多くは働く人の納税で成り立っていることを理解している」の平均値(標準偏差:SD)は、3.48 (0.67)。「ルールや規律、約束を一人ひとりが守ることが責任である事を理解し行動している」の平均値(標準偏差:SD)は、3.80 (0.40)。「無断で休んだり、遅刻すると周囲

に大きな迷惑をかけることを理解し行動している」の平均値(標準偏差:SD)は、3.86 (0.43)。「組織は一人ひとりの従業員(学生)の行動によって社会から評価されることを理解し行動している」の平均値(標準偏差:SD)は、3.65 (0.51)。「組織に対するクレームや問題は従業員(学生)全員の責任である事を理解し行動している」の平均値(標準偏差:SD)は、3.54 (0.63)と、高い値となっている(表5)。

【向上心・探求心】の5項目の合計の平均値(標準偏差:SD)は14.96 (2.72) だった(表3)。「わからないことはすぐに人に聞く前に自分でまず答えを考える」の平均値(標準偏差:SD)は、3.29 (0.66)。「自己成長のために定期的に取り組んでいることがある」の平均値(標準偏差:SD)は、2.78 (0.80)。「常に社会や経済の動きに関心を持つように心がけている」の平均値(標準偏差:SD)は、2.83 (0.83)。「社会問題等に対して自分なりの考えを持ち行動している」の平均値(標準偏差:SD)は、2.94 (0.80)。「今後の仕事に職業能力を分析し向上させている」の平均値(標準偏差:SD)は、3.12 (0.67) だった(表5)。

【責任感】と【向上心・探求心】の平均値の差は3.36あり、【向上心・探求心】の方が低かった(表3)。

表5. 職業人意識

項目	人(有効%)				M	SD	
	あてはまらない (1点)	あまりあてはまらない (2点)	まああてはまる (3点)	あてはまる (4点)			
責任感	社会の仕組みの多くは働く人の納税で成り立っていることを理解している	0(0.0)	7(10.1)	22(31.9)	40(58.0)	3.48	0.67
	ルールや規律、約束を一人ひとりが守ることが責任である事を理解し行動している	0(0.0)	0(0.0)	14(20.3)	55(79.7)	3.80	0.40
	無断で休んだり、遅刻すると周囲に大きな迷惑をかけることを理解し行動している	0(0.0)	2(2.9)	6(8.7)	61(88.4)	3.86	0.43
	組織は一人ひとりの従業員(学生)の行動によって社会から評価されることを理解し行動している	0(0.0)	1(1.4)	22(31.9)	46(66.7)	3.65	0.51
	組織に対するクレームや問題は従業員(学生)全員の責任である事を理解し行動している	0(0.0)	5(7.2)	22(31.9)	42(60.9)	3.54	0.63
向上心・探求心	わからないことはすぐに人に聞く前に自分でまず答えを考える	0(0.0)	8(11.6)	33(47.8)	28(40.6)	3.29	0.66
	自己成長のために定期的に取り組んでいることがある	3(4.3)	22(31.9)	31(44.9)	13(18.8)	2.78	0.80
	常に社会や経済の動きに関心を持つように心がけている	2(2.9)	25(36.2)	25(36.2)	17(24.6)	2.83	0.83
	社会問題等に対して自分なりの考えを持ち行動している	2(2.9)	18(26.1)	31(44.9)	18(26.1)	2.94	0.80
	今後の仕事に職業能力を分析し向上させている	1(1.4)	9(13.0)	40(58.0)	19(27.5)	3.12	0.67

[看護学]

[研究ノート]

#### 4.6. ディプロマポリシー

ディプロマポリシーは、29項目の質問を行った。合計の平均値(標準偏差:SD)は、86.13(7.97)だった(表3)。「人種や性別などの差別は仕方がない」の平均値(標準偏差:SD)は、1.62(0.93)、「個人が特定されなければ患者のことを他者に話してもよい」の平均

値(標準偏差:SD)1.19(0.67)と、差別感や個人情報への意識は他の項目と比べて低かった。「困っている人がいたら、手を差し伸べる」の平均値(標準偏差:SD)は3.77(0.42)、「看護は全ての人々に平等に行わなければならない」平均値(標準偏差:SD)3.81(0.49)と高い平均値を示していた(表6)。

表6. ディプロマポリシー

項目	人(有効96)				M	SD
	そう思わない 行っていない (1点)	あまりそう思わない あまり行っていない (2点)	ややそう思う 時々行っている (3点)	そう思う いつも行っている (4点)		
基本的人権は国民に平等な権利である	0(0.0)	4(5.8)	20(29.0)	45(65.2)	3.59	0.60
人種や性別などの差別は仕方がない	43(62.3)	14(20.3)	7(10.1)	5(7.2)	1.62	0.93
障害者は特別に扱われなければならない	10(14.7)	20(29.4)	25(36.8)	13(19.1)	2.60	0.96
看護は全ての人々に平等に行わなければならない	0(0.0)	3(4.3)	7(10.1)	59(85.5)	3.81	0.49
個人が特定されなければ患者のことを他者に話してもよい	63(91.3)	2(2.9)	1(1.4)	3(4.3)	1.19	0.67
幅広い分野の教養を身につけている	3(4.3)	26(37.7)	32(46.4)	8(11.6)	2.65	0.74
複雑な問題について順序立てて考えることが得意だ	8(11.6)	29(42.0)	25(36.2)	7(10.1)	2.45	0.83
誰もが納得できるような説明をすることができる	12(17.4)	37(53.6)	16(23.2)	4(5.8)	2.17	0.78
私の欠点は気が散りやすいことだ	6(8.7)	19(27.5)	24(34.8)	20(29.0)	2.84	0.94
物事を考えるとき他の案について考える余裕がない	9(13.0)	31(44.9)	19(27.5)	10(14.5)	2.43	0.89
課題がでなくても自ら進んで学習(予習・復習)をする	2(2.9)	24(34.8)	29(42.0)	14(20.3)	2.80	0.79
疑問を持ったことについては進んで調べている	0(0.0)	11(15.9)	30(43.5)	28(40.6)	3.25	0.71
苦手な科目や技術について克服する努力をしている	2(2.9)	4(5.8)	35(50.7)	28(40.6)	3.29	0.70
生涯にわたり学び続けたいと思う	4(5.8)	13(18.8)	27(39.1)	25(36.2)	3.06	0.88
新しいものにチャレンジすることが好きである	0(0.0)	8(11.6)	29(42.0)	32(46.4)	3.35	0.68
役に立つかわからないことでも、できる限り多くのことを学びたい	0(0.0)	15(21.7)	23(33.3)	31(44.9)	3.23	0.78
わからないことがあったら、先生や他の学生に積極的に聞く	0(0.0)	3(4.3)	26(37.7)	40(58.0)	3.54	0.58
先を考えて計画を立てることができる	3(4.3)	13(18.8)	34(49.3)	19(27.5)	3.00	0.80
いつも偏りのない判断をしようとする	2(2.9)	18(26.1)	27(39.1)	22(31.9)	3.00	0.83
一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	0(0.0)	7(10.1)	34(49.3)	28(40.6)	3.30	0.64
たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける	0(0.0)	2(2.9)	17(24.6)	50(72.5)	3.70	0.52
他者のアドバイスを熟慮して実践に活かす	0(0.0)	4(5.8)	19(27.5)	46(66.7)	3.61	0.60
自己の能力を高めるために自分に合った勉強方法を用いている	1(1.4)	13(18.8)	38(55.1)	17(24.6)	3.03	0.70
世の中で起きていることについて興味を持っている	0(0.0)	11(15.9)	35(50.7)	23(33.3)	3.17	0.68
ボランティア活動に参加している	23(33.3)	21(30.4)	18(26.1)	7(10.1)	2.13	0.99
困っている人がいたら、手を差し伸べる	0(0.0)	0(0.0)	16(23.2)	53(76.8)	3.77	0.42
社会のルールは常に守っている	0(0.0)	0(0.0)	21(30.4)	48(69.6)	3.70	0.46
集団の中で自分の役割を果たしている	0(0.0)	10(14.5)	33(47.8)	26(37.7)	3.23	0.68
私は地域に貢献している	7(10.1)	25(36.2)	22(31.9)	15(21.7)	2.65	0.93

〔看護学〕

〔研究ノート〕

## 5. 考察

### 5.1. 将来目指す職業

将来目指す職業として、看護師・保健師・助産師といった看護系の職業及び養護教諭といった教育系の職業を目指す学生は、全体の95.6%であった。また、複数の職業を目指す学生が全体の44.9%であったことは、1年生の入学当初から一つの職業ではなく、複数の専門職を考えている学生がいることが分かった。これらのことから、学部の特性として1年の早い時期から職業意識が高い学生が多いと考えられる。そのため社会人基礎力を養う科目の一つである「基礎ゼミナール」は重要な科目であると考えられる。

### 5.2. 学習状況

規則正しく生活ができ(82.6%)、授業の出席率もよく(98.6%)、予習(72.1%)や復習(75.0%)をおこなっている学習状況であることがわかった。しかし成績に満足していない学生が75.8%もあることは、効率的かつ効果的な学習がまだ身につけていないことも考えられる。あるいは学習の仕方がわからない学生もいるかもしれない。1年生の必修科目である「基礎ゼミナール」の<スタディスキル>では、将来の目標を立てること、その目標を達成するためには何をしなければならぬのかを考える授業がある。また、ノートテイキングスキルやリーディングスキル・ライティングスキル向上のための授業がある。こういった基本的な学習技術の習得や学習習慣を身につけることは、重要であると考えられる。今後の調査のなかで学習への取り組み状況の変化を確認していきたい。

### 5.3. 生活状況

相談相手がいいて(95.7%)、友人関係がよく(95.7%)大学生活に満足している(88.2%)学生が多いことがわかった。高校生の時とは違うあたらしい学生生活スタイルに早い時期から馴染んでいると考えられる。アルバイトをしている学生は58.5%あることから、大学の授業だけではなく、アルバイトといった社会との交流も社会人基礎力を養う上でも重要な生活体験であるので、アルバイトと他の項目との関連も今後検討していきたい。

平日の就寝時間が0:00以降の学生が20%、平日の起床時間が8:00以降の学生が23%となっているので、学習にあった規則正しい生活になっていない学生がいると考えられる。「基礎ゼミナール」の<スタディスキル>では、学生自身の1日の生活を振り返る授業がある。学習支援だけではなく生活支援を内容に組み入れ

ることが重要であると考えられる。今後の調査のなかで生活状況の変化を確認していきたい。

### 5.4. 社会人基礎力

社会人基礎力の<アクション><シンキング><チームワーク>の構成要素の中で、平均値が最も高かったのは【状況把握力】で17.22だった。次に高いのは、【傾聴力】で17.18だったことは、自分と周囲の人々の物事の関係性を理解し、相手の意見を丁寧に聞く力が高いと考えられる。一方、【創造力】の平均値が最も低く12.28で、次に【実行力】の平均値が14.01だった。このことは、自らが新しい価値を生み出し、ゴールに向かって目標を設定し確実に前に進んでいく実行力が低いと考えられる。

看護職は、対象者のニーズに耳を傾け、立場の異なる多くの関係者と意見を出し合い、チームの一員として働く力は重要である。しかし、そういった力だけではなく、創意工夫し新しい価値観を柔軟にとり入れ、チームの目標を達成するために、多くの関係者に主体的に関わり働きかける、チームを引っ張る推進力も必要であると考えられる。「基礎ゼミナール」や多くの授業の中に、グループワークを取り入れている。「基礎ゼミナール」以外の授業においても、<アクション><シンキング><チームワーク>を意識した授業を組み立てて行うことが社会人基礎力の醸成につながるのではないかと。

「基礎ゼミナール」の<キャリアデザイン>では、<スタディスキル>の学習を踏まえ、今後の看護専門教育への橋渡しの位置づけになっている。自分のキャリアをデザインし、“今すべきこと”を自覚し、計画的な学習や行動へと結びつけることを目的としている。今後の調査のなかで、「基礎ゼミナール」での教育によって、社会人基礎力がどのように変化をするのか確認していきたい。

### 5.5. 職業人意識

職業人意識は、【責任感】については、各項目の平均値が3.48~3.86と高い傾向にあることがわかった。

「無断で休んだり、遅刻すると周囲に大きな迷惑をかけることを理解し行動している」の平均値は3.86、「ルールや規律、約束を一人ひとりが守ることが責任である事を理解し行動している」の平均値が3.80であることから、1年生の段階から、決まりや規則を守る意識が備わり、【責任感】のある行動をとっているのではないかと考える。【向上心】については、各項目の平均値は、2.78~3.29だった。【向上心】は【責任感】と比べ

[看護学]  
[研究ノート]

るとやや平均値は低い値をしめしたものの、【向上心】の項目の中で、「今後の仕事に職業能力を分析し向上させている」の平均値が3.12と他の項目より高いことから、看護専門職を将来目指す学生の向上心が1年次より高い傾向にあると考えられる。こうした高い職業人意識をもつ学生にとって、「基礎ゼミナール」の<スタディスキル>や<キャリアデザイン>教育は、大変重要であると考ええる。

#### 5.6. ディプロマポリシー

本研究は、看護学部での教育による学生の社会人基礎力の獲得状況とその課題およびディプロマポリシー到達度について明らかにするものであるため、今回の調査は、初年次教育を始める前の学生を対象に調査をおこなったものである。

「看護は全ての人々に平等に行わなければならない」の平均値は3.81、「基本的人権は国民に平等な権利である」の平均値は3.59と他の項目の平均値より高いことから、1年生の早い時期から高い倫理観がすでに備わっていることが考えられる。また、「困っている人がいたら、手を差し伸べる」の平均値は3.77、「社会のルールは常に守っている」の平均値は3.70と、他の項目の平均値より高いことから、1年生の早い時期から看護の視点から広く社会貢献する態度についても同様であると考えられる。これは、将来看護職を職業に目指す学生が本来持っている資質であると考ええる。「複雑な問題について順序立てて考えることが得意だ」の平均値は2.45、「誰もが納得できるような説明をすることができる」の平均値は2.17と他の項目の平均値より低いことから、看護の現象・事象に対応できる高度な専門的知識や実践力を修得することが、今後の学生の課題と考える。

#### 6. 今後の課題

本研究は、令和4年度と5年度に入学した学生を対象にそれぞれ4年間調査を行うものであり、今回の調査は令和4年度に入学した学生の第1回目の調査であったため、調査結果を記述統計量でまとめたものである。今後は学年別、経年変化の検討を行い、看護学部での教育による学生の社会人基礎力の獲得状況とその課題およびディプロマポリシーの到達度を明らかにしていきたい。

#### 7. 引用・参考文献

- 1) 文部科学省：令和3年度学校基本調査，[https://www.mext.go.jp/content/20211222-mxt\\_chousa01-000019664-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211222-mxt_chousa01-000019664-1.pdf), 2021.12. (2022年9月).
- 2) 経済産業省：社会人基礎力，<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>, 2022.9.
- 3) 文部科学省：平成30年度の大学における教育内容等の改革状況について調査，[https://www.mext.go.jp/content/20201005-mxt\\_daigakuc03-000010276\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201005-mxt_daigakuc03-000010276_1.pdf), 2022.9.
- 4) PROG：ジェネリックスキル成長支援プログラム，<https://www.riasec.co.jp/progtest/test/>, 2022年9月.
- 5) 厚生労働省：エンプロイアビリティの判断基準に関する調査研究報告書，エンプロイアビリティチェックシート 総合版，2001.
- 6) 藤由記子：看護学生の社会人基礎力の実態と育成方法の検討，研究紀要青葉，第13巻 第2号，pp 153-160，2022.
- 7) 古賀雄二，石田実知子他：A大学看護系学科における新入生と卒業生の社会人基礎力の比較，川崎医療福祉学会誌，Vol31 No.2，pp395-405，2022.
- 8) 荒巻準浩，大和田宏美：入学時のレジリエンス値が社会人基礎力およびGPAに及ぼす影響，仙台青葉学院短期大学，研究紀要青葉，第14巻 第1号2，pp 185-194，2022.
- 9) 高木みどり：看護基礎教育における社会人基礎力育成に関する研究の動向，大阪総合保育大学紀要，第16号，pp 153-160，2021.